

平成30年度市町村がん検診受診率等(確定値)について

健康増進法に基づくがん検診の対象年齢は、上限の年齢制限を設けず、ある一定年齢以上の者としているが、受診率の算定にあたっては、「がん対策推進基本計画」(平成24年6月8日閣議決定)及び「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針(平成20年3月健康局長通知)」に基づき、胃がん50～69歳、肺がん・大腸がん・乳がんは40～69歳、子宮頸がんは20～69歳を対象とする。しかし、胃がん検診において「胃部エックス線検査については、当分の間、40歳以上の者を対象としても差し支えない」と指針に定められており、奈良県の多くの市町村が40歳以上を検診対象としている現状から、40～69歳を対象として算出する。

なお、プロセス指標(要精検率・精検受診率・精検未受診率・精検未把握率・がん発見率・陽性反応適中度)は40～74歳(子宮頸がんは20～74歳)を対象として算出する。

●市町村におけるがん検診対象者数の変更について

～平成29年度分は、**推計対象者数**を採用

国立がん研究センターが算出する推計対象数＝住民全体から職域がん検診受診可能者を除く



平成30年度分より、**全住民及び国民健康保険被保険者数**を採用

※「がん検診受診率等に関するワーキンググループ報告書」において、市町村間で比較可能ながん検診受診率算定方法として「国民健康保険被保険者のうち市町村事業におけるがん検診を受診した者の割合」が提案された。

●受診率＝((前年度の受診者数)＋(当該年度の受診者数)－(前年度及び当該年度における2年連続受診者数))／(当該年度の対象者数*)×100

*対象者数は、年1回行うがん検診の場合と同様の考え方で算定する。

1) 受診率については、平成29年度までの検診対象者数の算出方法が異なるため、過去の受診率との比較が困難である。また、がん検診受診者のうち、国民健康保険の被保険者を用いた受診率を算出しているが、算出困難である市町村も多いことから、大腸がん・肺がんの受診率のみ再掲している。今後は、国保(検診受診者数)/国保(加入対象者数)についても、市町村事業として評価を行う予定である。

2) がん検診の質を向上させることが受診率向上と同様に重要であり、特にプロセス指標の精検受診率(未受診率・未把握率)の改善が課題となっている。下記の許容値未達成の市町村について要因分析等を行う必要がある。

[精検未受診率(許容値 20%以下/乳がん 10%以下)の未達成]

胃がん X 線: 4市町村(安堵町、広陵町、御杖村、野迫川村)

肺がん: 4市町村(下市町、山添村、天川村、十津川村)

大腸がん: 9市町村(斑鳩町、安堵町、王寺町、下市町、御杖村、明日香村、天川村、十津川村、川上村)

乳がん: 6市町村(桜井市、安堵町、王寺町、広陵町、明日香村、十津川村)

子宮頸がん: 7市町村(大和郡山市、桜井市、五條市、葛城市、安堵町、王寺町、広陵町)

[精検未把握率(許容値 10%以下)の未達成]

胃がん X 線: 3市町村(天理市、橿原市、御所市)

胃がん内視鏡: 2市町村(葛城市、三郷町)

肺がん: 3市町村(奈良市、御所市、吉野町)

大腸がん: 8市町村(天理市、橿原市、桜井市、御所市、平群町、高取町、上牧町、吉野町)

乳がん: 2市町村(斑鳩町、高取町)

子宮頸がん: 12市町村(奈良市、大和郡山市、天理市、橿原市、生駒市、香芝市、斑鳩町、川西町、高取町、上牧町、河合町、吉野町)

3) コール・リコール事業で国立がん研究センターの資材を個別の受診勧奨(コール)のみに使用した市町村は、6市町村。受診勧奨資材を使用した介入群は、対照群(前年度の対象者)に比べ、王寺町(乳がん、子宮がん)、広陵町(乳がん)で大きく増加している。また、個別の受診勧奨・再勧奨(コール・リコール)についても、受診勧奨・再勧奨(コール・リコール)共に国立がん研究センターの資材を使用した8市町村のうち、広陵町(子宮がん)、大和郡山市(子宮がん)、御所市(大腸がん)で、介入群の受診率が大きく増加している。(資料2-3参照)